



—北アフリカ地域ニュース—

スーダン：南スーダンの独立

7月9日、南部スーダンが独立し南スーダンが成立した。アフリカの54番目の国で、近く国連に加盟する193番目の国になる。今回の独立は、2005年1月に成立したスーダン政府と南部の武装勢力 SPLA 間の和平合意に拠る。スーダン南部では、同合意に基づき、2011年1月に南部の将来を決める住民投票が行われ、2月に最終結果がまとまり、98.83%が独立を支持していた。

南スーダンの独立は、予定通りの日程で達成されたが、国家という入れ物が先に整備されただけで、中身の整備はこれからになる。7月8日、スーダン政府は、南スーダンを承認し、9日の独立式典には、バシル大統領が参加している。しかし、スーダン政府は、国境線については合意していない。両国は、独立後に、境界などについて継続協議することで合意しているだけである。スーダン政府の収入の約6割、南スーダンの収入の9割を石油収入がしめるといわれる。油田地帯は南スーダンにあるが、石油の輸出インフラは北部にある。油田地帯での国境確定を含め、スーダン政府と南スーダン政府の交渉は、これからが本番になる。

内政も流動的だ。南スーダンのサルバキール初代大統領は、演説の中で、国内の6つの武装勢力に対する恩赦に言及した。南スーダンの内政の統一も、まだ未達成の課題である。サルバキール大統領は、10日に6つの大統領令を発出し、副大統領を指名するなど政府が再編成されるまでの暫定的な幹部人事を決定した。

日本を含め米国、英国、仏国、独国、伊国、カナダなどが、7月9日の独立とともに南スーダンを承認した。イスラエル政府は10日、南スーダンを承認した。イスラエル内相は、国内のスーダン違法移民の問題を南スーダンと協議したいと述べている。

(中東調査会 主席研究員 中島 勇)